

Stainless-wire Basket

# orphée

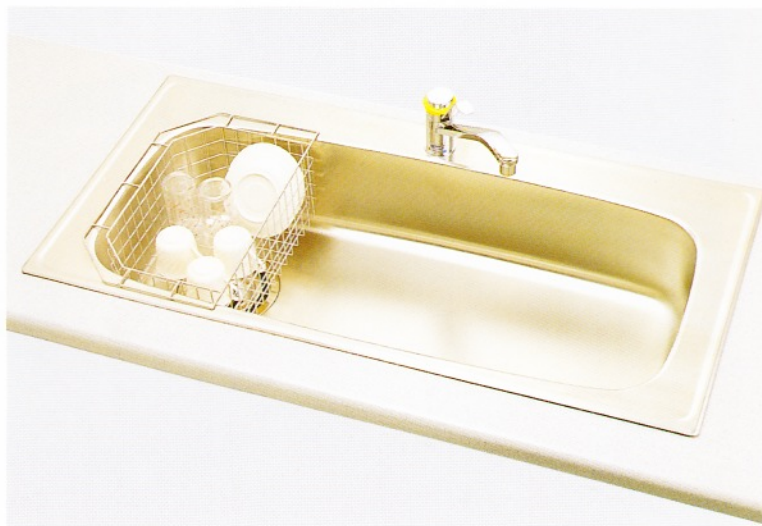
バスケット & Kitchen ワーク！ 工夫いろいろ。

■ 食器の水切りに ■■■■■

電解研磨仕上げ・銀白色の輝き、  
清潔。

さびと無縁です。

ステンレス製(SUS304)バスケット！



■ 野菜の水切りに ■■■■■

又、片方で1/2バスケットごと水に漬けて  
自然な解凍を！





## 自信をもってお推しします

### 1. 何故ステンレス線材を素材にしたのか？

現在市販されているワイヤー製品(線材製品)は、安価な鉄線材を材料にして、液体プラスチックで焼付塗装あるいはドブ漬け塗装をするか、固体プラスチックで粉体塗装をする、いわゆる樹脂コーティング製法による物がほとんどを占めています。しかしこの樹脂線材製品には大きな欠点があります。こすりキズ・刃物キズ等に起因して樹脂が裂けた場合にその部分から鉄サビを生じさせることです。摩耗及び経年変化で樹脂が破れた場合も同様です。

いったい、食物や食器を入れるバスケットがサビてよいものでしょうか。

そこで弊社では、この製品の素材にサビ・キズに対して絶対的に信頼のおけるステンレス線材(SUS304)を選択したのです。におい、汚れの付着を拒み、清潔感のあふれるステンレス線材の性質は、シンクバスケットにはうってつけの素材なのです。弊社は、水回りで鉄を使うべきではないという日常生活での常識を、製品開発における原点にしているのです。

### 2. 溶接金網！

シンクバスケットにとって大切なことは、中に野菜・食器をいっぱい入れた場合でも、その重量に耐えてバスケット自身の網目(形状)がくずれないことでしょう。又、持ち運びがラクなように軽いことも望まれます。前の要素をみとすには、太い線材を、後の要素をみとすには細い線材を用いればこと足りるのですが、2つの相反する要素を同時にみとすと、製造上の大きな矛盾となります。かくして、弊社は細い線材を使い、丈夫な網の織型を工夫しつつ、形のくずれないバスケットの製作という難題に取りくむことになるのです。

途中の試行錯誤は略します。ただ1つ言えるのは、このシンクバスケットの製作においては、平織・綾織等の一般的な線材の織型は、上記命題を解決する上で、何ら役に立たなかったということなのです。

そして多岐にわたる検討の結果、溶接金網を採用するに至ります。それは、直角に配列された縦横の線材の交差部分を全てスポット溶接で固定して、網の可動部分をまったく無くした金網のことです。同じ太さの線材を使用した一般的な織型のものに比較すると、形状のくずれが極めて少ないのが特長です。さらにそれは基本的に空間率を高められる構造を備えています。だからデザイン次第では十分軽量化を実現できます。溶接金網は、弊社が模索の末捜しあてた、まさにバスケットのための夢の金網といえます。

### 3. 8角柱体、2φ線材のこと！

まず、形状についての考察です。

最初の試作は《エルファ》バスケットのように、下部面積が上部面積より小さくなる、側面にテーパー(傾斜)のあるタイプのものでした。この形の魅力は、どことなくデザイン性を持っているようにみえることと、重ね積みができるので在庫や出荷の際に便利なこと。但し、シンクボウルに入れた場合、落ちつきがないという難点があります。前後左右のぶれ止めとして機能すべきバスケットの側面が、テーパーつきの面であるために、ボウルとのあたりを点にするからです。ボウルに対するぶれ止めが線を形成してこそ、使用中のバスケットは安定した座りになります。

そこで生まれたのが、テーパーをなくする柱体形状の発想です。凡そ、シンクバスケットとして意味のある柱体形状は下記の3タイプにしばれるかと思われま

イ. 円柱体：シンクボウルの曲線(R)に沿う円柱体はバスケット

トの中に入る形状としては理想的であるが、外フレームが円形になるため、シンクの天板部分の四角形状となじまず、座りも悪い。外フレームを角形にすれば内フレームとのアルゴン溶接作業が難しい。

ロ. 四角柱体：この形状は、シンクボウルの辺のふくらみと4角のRを無視するので、バスケットの直線とボウルの縁との間が大きく開く。そして、バスケットの上部面積も、内容積も小さくなる。又、外フレームは、前・後部のみでシンク天板にのる状態になるので、使用中の座りが悪い。

ハ. 多角柱体：シンクボウルに入るバスケットの(8角柱体以上)。形状としては内容積の大きさでは円柱体に次ぐものであるが、円柱体、四角柱体にみられる他の欠点がない。

以上の考察から、大きいサイズのバスケットが製作可能であることと、安定した座りの維持という2つの条件をみとすのは、多角柱体であることがわかります。

次に、面と辺の構成材について。

製作上の基本条件は、(A)ぶれ止めを線ととらえる8角柱体であること、(B)軽いこと、(C)ソフトイメージのデザインであること、(D)重荷に耐え得ること、(E)製造コストを押さえられること……の5項目を実現させることです。

まず、8角柱体の全辺を5φ線材で溶接し、底面と側面を1φ10mm角の溶接金網で囲い貼りするバスケットを試作しました。しかしそれは重い重量とごつごつした印象もさることながら、全ての工程を手加工に依存し、製造コストが極端に高くつく代物でした。それ以後、再々の試行錯誤の末、本カタログ掲載のorphéeが試作されるのです。

具体的には上面の8角形の線材を5φから4φにおとし、その他の5φフレーム(辺)を全辺除去します。そして、一方では強度をだすために、2φ線材を用い、その20mm角の溶接金網を8角柱体に加工して、上面のフレームに溶接します。この溶接箇所は樹脂コーティングではありませんので、当然露出しますが、程よい太さの2φ線であるために、美しく仕上げる事ができます。

このような過程を経てorphéeは上記の製作上の基本条件を満たすバスケットに仕上がったのです。

### 4. だからorphéeは10タイプ！

シンクバスケットに入れる食器とか野菜の量は、家族構成が違って、大きく変わります。たとえば、4~5人位の家族の食事の後かたづけの場合、大きいバスケット1個では、ときには足りないこともあるでしょう。とはいえ、大きいバスケット2個を使用するのでは、逆にシンクでの洗う作業がしづらくなります。そこで弊社は1/2サイズのバスケットを考案しました。ジャンボシンクを備えているご家庭では、大バスケットと1/2バスケットを組み合わせて、新しいバスケットの使い方を試みてはいかがでしょうか。一方、独身者が少量の食器を使用するケースでは大きいバスケットは不要です。1/2バスケットはこの様な場合にも便利です。又、1/2バスケット2個で、野菜と食器を別々に区別して入れる使い方もあります。

利用の仕方はいろいろに、キッチンライフの可能性を広げます。又、アンダーカウンターシンク専用のバスケットも用意しました。人造大理石ワークトップにアンダーシンクを取り付けた場合、かぶり寸法R等の関係でオーバーシンク用バスケットが使えないからです。寸法体系にアンダー独自のものが要求されているのです。

弊社は、バスケットが有効に利用されるために、あらゆる使用状況をイメージしています。だからorphéeは10タイプなのです。

### 5. おわりに

製品企画に手を染めて、すでに16ヶ月です。ひとつを解決してはまた新しい課題のくり返して、ステンレス製ワイヤーバスケットorphéeは実に難産でした。材質の吟味、材料の選択、形状の考察と、今思えば砕心・工夫も十分したつもりです。それだけに愛着もひとしおです。自信を持ってorphéeをお推しします。